

地域と時を紡ぐ人々

連綿と受け継がれる地域の伝統や芸能、自然などを次代に継承する方々を、広報たかやまではシリーズで紹介していきます。

第十二章

飛驒染を次世代へ

鬨鳴楽や獅子舞など、飛驒地方の祭には欠かせない飛驒染。かつては市内に数件あった飛驒染業者も、現在は越後町に工房がある「ゆはら染工」が唯一、昔ながらの技法を今に伝える老舗です。

5代目で社長を務める柚原雅樹さん(48)は大学卒業後に家業を継ぎました。

「父である先代の仕事を目で覚えながら、工程を体で覚えていきました。飛驒染に携わり25年経ちますが今でも毎日が修行です」と振り返ります。

ゆはら染工では、江戸時代から受け継がれてきた原画や型紙を元に、もち米で作ったのりを使って布地に下絵の線を描き、大豆の絞り汁で溶いた顔料で染め上げます。

冬の日差しにさらされる飛驒染の寒ざらし。寒風にさらすことで発色を鮮やかにさせる冬の工程の一つです。



各神社に伝わる衣装の絵柄は違うものが多く、普通りに復元するために全てが気の抜けない作業ばかりです。また顔料も当時の材料が見つからない場合は、遠く海外からも取り寄せるなどして限りなく近い色を作るこだわりがあります。

「飛驒染の伝統を守りたい」

6代目は、と尋ねると「今春から大学生ですが、卒業後は家業を継いでくれるはずですよ」と職人の顔に笑みがこぼれました。

広報 市長だより

37

ひとつになつて10年
そして明日へ

高山市長 國島芳明

平成17年2月1日に10市町村が合併して、新しい高山市が誕生してから10年が経ちました。今に至る市政の発展は、先人の皆様方の並々ならぬご尽力の賜物と、人々の心に受け継がれた「まちづくりの熱き思い」の結実であることは言うに及ばません。本日を迎えるにあたり、あらためて深甚なる敬意を表します。

さて、10年間で市政を取り巻く環境は大きく変わりました。10年前では予想だにしない行政課題も多く突きつけられています。


このような中、連綿と受け継がれてきた自然や伝統、人々の営みを守り育て、市民の皆様が夢と希望が満ちあふれるまちづくりが進められています。末永く自立したまちを築いていくためにも、お約束の実現と市民の皆様一人ひとりが主人公の市政の推進を、本日、決意を新たにしました次第です。乾坤一擲の年であります。そして本日がその一歩目です。どうぞ今後の市政の発展に、より一層のご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ケーブルテレビの番組「ハイ、市長です」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.city.takayama.lg.jp/net-tv/index.html>

市長室へようこそ

●市民と市長の面談日

2月18日(水)
午前9時～11時45分
※事前にご予約ください



また、始業前の時間も市役所の市長室を「市民と市長の対話の場」として開放しています。お気軽にお越しください。

●開放時間
午前7時～8時30分まで
※出張や特別な行事がある場合は除きます。
※市ホームページで市長の週間スケジュールを公開しています。

市長室直通FAXもご利用ください
FAX●32-7000

問合せ先 秘書課 ☎35-3130

